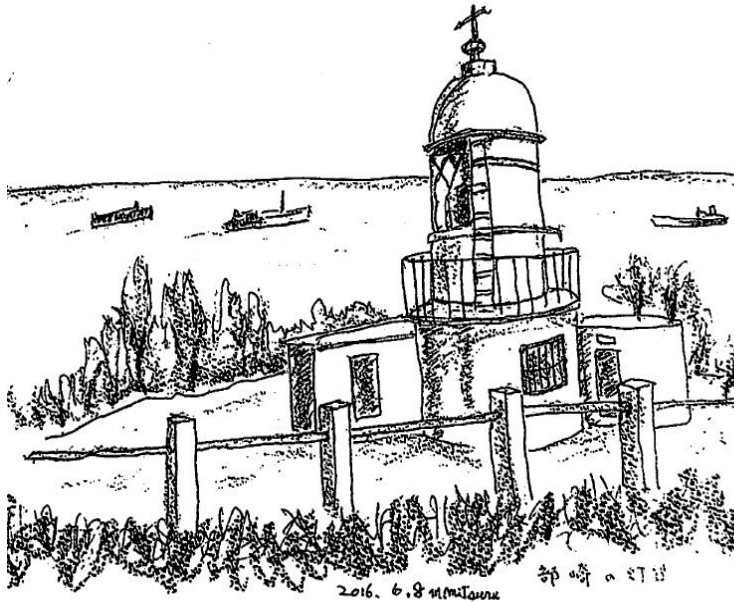


週報2021年10月3日



2021年教会標語聖句

見よ。わたしは新しい事をする。
今、もうそれが起ころうとしている。

イザヤ書43章19節

シオン教会信仰指標：“イエス様と共に歩む”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2021年10月3日

ピアノ：赤松眞佐子 姉 オルガン：力丸勝子 師
司会・メッセージ 山崎銀次郎 牧師

祈祷	開会の祈り
信仰告白	使徒信条・標語聖句唱和
賛美	新聖歌 214「イエスより流るる」
祈祷	* 今日までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！ *
祈祷	献身の祈り
賛美	新聖歌 196「祈れ物事」
賛美	コーラス 33「なんという愛」
聖書朗読	マタイによる福音書18章21—35節
説教題	「かわいそうに思って」
祈祷	御言葉の応答の祈り
頌栄	「主の祈り」
祈祷	祝福と派遣の祈り

交わりの三省

- * 互いに愛し合っていますか
- * 互いに赦し合っていますか
- * 互いに祈りあっていますか

説教要約

マタイ 18 章 21-35 節

「かわいそうに思って」

①赦しは神の国の必修科目

学校で学ぶ授業には選択科目と必修科目というものがあります。前者は選んでも良いし、選ばなくても良い学科で、後者は必ずその学校で学ぶ授業です。マタイ18章(マタイ全体もそう)からイエス様の授業が始まります。科目は“天の御国に住む人とは”で授業内容は“赦し”です。聖書を学ぶ者にとって、“赦し”は必修科目です。

今日の箇所のテーマは“**兄弟間の中で起こる罪の赦し**”です。ペテロの「兄弟が私に対して罪を犯した場合、何度まで赦すべきでしょうか？」という質問に対して、イエス様は“例え話”を通じて答え(教え)始めます。この例え話の要約は既に18章14節で語られています。つまり「小さい者達が一人も滅びてほしくない」、という天の父の心を自らの心として、“心から兄弟を赦す”事です。

マタイ18章の中で“小さい者”と言うキーワードになる単語が出て来ます。この“小さい者”とは誰か？これが重要です。永遠の救いを信じ、神の国に移されることが約束された者、これが小さい者達です。つまりイエス様を信じた信者達、イエス様の弟子達の事を指します。神の教えを守り、互いに赦し合う関係に入っていく事＝天国までの道のりを歩く、と言う事です。私達の道のりは“赦し”という必修課程を経て天国に近づいて行きます。

②赦しとは行動の伴う温情

今日の“債務者と王様”の例え話で一番重要な言葉は王様の「**かわいそうに思って**」です。原語では「**スプランクニゾマイ**」と言います。読むとき舌を噛みそうな単語ですが、興味深い事に聖書でこの単語が使われる時は、“相手の事を深く同情し、いてもたってもいられなくなり、相手に対して行動を起こす”際に使われています。例えば有名なあの“放蕩息子”でこの言葉が使われています。父が帰還した子供に対して抱いた感情「かわいそうに思って」、父は「走り寄って、彼を抱き、口づけ」をしました。

王様も債務者に対して「かわいそう」に思いました。そしてこの場合も単に

心で思っただけではなく、行動の伴った温情を示し、相手を赦したのです。この時の債務者の借金はざっくり日本円に換算すると6000億円です。王様は全てを赦し、借金を帳消しにしました。それは、債務者が家族から切り離され、所有物から切り離され牢屋の中で一人孤独に過ごす姿が耐えられなかったからです。これが温情(愛)の伴う行動(犠牲)＝赦しです。放蕩息子の父も、王様も、イエス様の十字架の愛を示しています。

この王様と債務者の例え話の要点は「自分も相手(つまり兄弟姉妹間)も孤独にならないためにお互いに赦し合う」ことです。その時大切な事が二つあります。一つは、イエス様が私達にして下さったように、温情の伴う行動を示して相手を赦す事です。そして後もう一つ、赦しは自分の領域ではなく、神の領域だと言う事です。神様は私達が自分で負債を抱える事も、相手に負債を負わす事も望んでいません。愛と赦しは十字架に自分の荷をおろす事で始まって行きます。

③自分の量りから神の量りに

マタイ18章で弟子達がイエス様に「天の御国では、誰が一番偉いか」質問します。実はここからイエス様の弟子達に対する“赦し”のレッスンが始まります。ここで言う「こどものよう」とは自らを低くし、悔い改める者のことです。つまり小さい者を受け入れると言う事は、互いに天国に向かう道のりを一步一步進んで行く神の兄弟を咎め、貶めるのではなく、謙虚になって尊重し合い、互いに愛し合う事です。(ピリピ2:1~2)

今日の例え話の“債務者”は何が問題だったかと言うと、王からあわれみを受けたのに、仲間を“債務者と蔑み”あわれみを与えなかった事です。(マタイ18:32-33)今日の箇所から教えられることは、自分の量りで人を量る人は、神の量りを蔑ろにすると言う事です。(マタイ7:2)神の量りは「小さい者達が誰一人として滅びず、もれなく救いに与る事」です。

今日の結論は、“自分が赦されている事を知る為に他人を赦す”と言う事です。言い換えると自分は小さい者だと知る事です。小さい者は御言葉にひた向きです、小さい者は悔い改めます、小さい者は、兄弟と心をつなげる事をつとめます。そして小さい人は同じ小さい人を受け入れます。それは自分が神に受け入れられている事をもっと知りたいからです。共に天の御国と父を仰ぎつつ、前進して参りましょう。